

介助犬のひろば in 大東 2015 開催報告

川村義肢株式会社 剣持 悟

1. はじめに

介助犬とは手や足に障がいのある方の手助けをするために特別な訓練を積み、認定された犬のことであり、社会参加と自立を助けるための存在である。我々福祉用具・サービスを提供する立場として、使用者・利用者に最もよいと考えられるモノをお届けするには、「生きる補装具」と呼ばれる介助犬も選択肢の一つになりうる。介助犬の存在を地域住民・市民に知って頂くと共に、障がいのある方と共に暮らすためにはどのような人、物、サービス、情報が必要なのか考えてもらうきっかけとして開催した。

2. 開催概要

2014年12月17日(水)～20日(土)の4日間、大阪府の大東市立総合文化センターで開催した。三団体(川村義肢株式会社、大東市立総合文化センター、社会福祉法人日本介助犬協会)の共催とした。

後援は大東市、大東市教育委員会、大阪府、大阪府作業療法士会、大阪府理学療法士会、日本義肢装具士協会、そして日本リハビリテーション工学協会から承諾を頂いた。

内容は一番人気の介助犬クイズラリーや、様々な福祉機器体験・展示、作業療法士会の発行するパンフレット(認知症、発達障害、パーキンソン病、うつ)の配布、関西圏の大学における障害者支援の内容、各種相談窓口のご紹介、ハローワークより各種就労支援事業助成金の紹介、介助犬シンシア写真展、ビデオ上映、折り紙・すごろくなどの遊びコーナー、シンポジウム(土曜日のみ)と盛り沢山であった。

今年は年末間際、寒波襲来の後の大雨で、条件としては最悪だったが、約340名の方々にご来場頂いた。雨の中、合羽を着て電動車椅子で参加される方々を目にして、頭が下がる思いであった。

3. アンケート結果

広報は大東市内を中心に行ったが、市内から半分、市外から半数の方が来場され、広域から多くの方が参加された。年齢層は小学生が3割、41～65歳が3割で、その他にもあらゆる世代から興味を持って頂けた。来場の理由は介助犬のことを知りたかったからが最多で4割以上、次に福祉や介護に興味があるからが17%であった。前回楽しかったからという方も1割を占めた。イベントの評価としては、友達に強く勧めたいが12%、次回も参加したいが約半数であった。

4. 今回の成果と今後に向けての課題

市内全小学生へのチラシ配布や市報での告知により、大東市内では介助犬の認知が進んでいる。しかし、介助犬クイズで苦戦するところからも分かるように、まだまだ正確な理解を得るまでには至っていない。今後は、正しい理解について啓発し続けていきたい。

また、今回は大阪府自立支援課、大東市障害福祉課、柏原市障害福祉課から多くの職員の方々が参加された。今後に向けて顔の見える関係づくりが実現でき、次回に向けて力強い連携が確認された。

さらに専門職間での連携も強化された。作業療法士、理学療法士、義肢装具士、リハエンジニアと連携をとり、進めることが出来たので、来年以降も継続していきたい。

川村義肢株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1